

☆年間第31主日(11月5日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (マラキの預言 1章 14-2章 2、8-10節)

わたしは大いなる王で、わたしの名は諸国の間で畏れられている、と万軍の主は言われる。祭司たちよ、今あなたたちにこの命令が下される。もし、あなたたちがこれを聞かず、心に留めず、わたしの名に栄光を帰さないなら、と万軍の主は言われる。わたしはあなたたちに呪いを送り、祝福を呪いに変える。あなたたちは道を踏みはずし、教えによって多くの人をつまづかせレビとの契約を破棄してしまったと万軍の主は言われる。

わたしも、あなたたちを民のすべてに軽んじられる価値なき者とした。あなたたちがわたしの道を守らず人を偏り見つつ教えたからだ。

我々は皆、唯一の父を持っているではないか。我々を創造されたのは唯一の神ではないか。なぜ、兄弟が互いに裏切り我々の先祖の契約を汚すのか。

第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 I 2章 7-9、13節)

皆さん、わたしたちは、あなたがたの間で幼子のようにになりました。ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、わたしたちはあなたがたをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命さえ喜んで与えたいと願ったほどです。あなたがたはわたしたちにとって愛する者となったからです。兄弟たち、わたしたちの労苦と骨折りを覚えているでしょう。わたしたちはだれにも負担をかけまいとして、夜も昼も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えたのでした。このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです。

福音朗読 (マタイによる福音書 23章 1-12節)

そのとき、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

秋晴れの素敵な青空が広がっています。イチョウの葉も黄色く色づき始めました。まだ夏の暑さが思い出される暑い日が続きますが、秋はもうすでに晩秋に向かっています。幼稚園の園庭では白菜やキャベツ、ブロッコリーなどが育っています。ぶどうも色づき、もうすぐ収穫です。教会の暦も後わずか。この一年の成長、実りはどうだったでしょうか。神さまにお捧げする供え物に私たちの霊的成長をお捧げしたいものですね。先週のバザーではたくさんの方の来場を迎え、信徒の皆さまも和気あいあいと売り子をしておられる姿が素敵でした。皆が一致して働く姿は本当に貴いものですね。ありがとうございました。ミサの集会祈願には「約束された国に向かって共に歩むことができますように」とあります。一人ではなく「共に」歩んでいくのです。そのことをミサの中で実感しましょう。

第一朗読 (マラキの預言 1章 14-2章 2、8-10節)

旧約の歴史の中で神の道を踏み外してしまったイスラエルの民に伝えられた神のことばが読まれています。この道を踏み外してしまった内容は、正しい礼拝が行われず、不正が横行し、多くの人々を躓かせ、人を偏り見つつ教え、兄弟が互いに裏切ったことのようにです。つまり、イスラエルの民にとって唯一の神、唯一の父から離れてしまったことが指摘されているのです。現代の私たちもイエス・キリストの名を見に受けながら、実はその心から離れてしまっていないか考える必要があります。

第二朗読 (使徒パウロのテサロニケの教会への手紙 I 2章 7-9、13節)

使徒パウロがテサロニケの教会の人々に対しとても信頼し喜んでいる様子が伝わってきます。「あなたがたは私たちにとって愛する者となった」と述べています。それで自分の命さえ与えたいと母親のような気持になったとも述べています。また、パウロたちから聴いた言お葉を、人の言葉としてではなく、神のことばとして受け入れたテサロニケの教会への感謝を述べています。パウロへの信頼が厚かったことがうかがえます。また、「昼も夜も働きながら」とも言っています。つまり宣教活動というのは、言葉とともにどのように行動し、どのように生活しているかが問われることなのです。

福音朗読 (マタイによる福音書 23章 1-12節)

イエスは当時の社会の指導者たちに対する対応の仕方を説いています。つまり教えていることはしっかり守り、その行いには倣うな」と。その行いは自分を偉く見せるためだからと。見習うべきは本当の教師、キリストのみだと。キリストは教えることを実行しているからなのだと。そしてすすんで、一番偉い人は、仕えるものになりなさいと言われます。人に認められるものは神には認められないのです。神は人の心を見ておられるのです。



秋色に映える上高地（2021年11月）

P.S.

今日は七五三の祝いがあります。人口減少が続く日本ではとても大事な存在です。もともとキリスト教的な祝いではありませんが、キリスト教が地域に根付く大事な要素ではないかとおもいます。しっかり子どもたちのために祈りたいと思います。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光